



<プログラム>

- I ロシア合唱聖歌集より
 1. ヘルビムノ歌 ホルニヤンスキー 作曲
 2. 来たりて主に歌えよ ホルニヤンスキー 作曲
 3. 角笛の声を知る民は幸なり ホルニヤンスキー 作曲
- II なつかしい合唱曲
 1. ホーム・スイート・ホーム ビショップ 作曲
小川一朗 編曲
 2. ロンドンデリーエア 津川圭一 編曲
 3. 峠の我が家 千葉了道 編曲
 4. 鶯 メンデルソーン 作曲 / 近藤朔風 作詩
 5. 夢見る人 フォスター 作曲 / 柴田南雄 編曲
- III 小品集
 1. 夕べの歌 阪田寛夫 作詞 / 磯部叔 作曲
 2. 草原の別れ 阪田寛夫 作詞 / 大中恩 作曲
 3. 藤 大木惇夫 作詞 / 清水脩 作曲
 4. 花の店 安西均 作詞 / 千葉了道 作曲
 5. 飛沫章 及川均 作詞 / 千葉了道 作曲
- IV 混声合唱 岬の墓 堀田善衛 作詩
団伊玖磨 作曲

<団員名簿・出演者名簿>

<指揮者・ピアニスト・役員>

常任指揮者	千	葉	了	道
ピアノ	毛	藤	勲	子
委員	吉	田	久	五
副委員	佐	藤	静	郎
庶会	中	村	静	洗
	郷	近	静	子
	右	野	田	子
	中		鶴	
パートリーダー	Sop.			
	Alt.			
	Ten.			
	Bas.			

				< Sop. >									
金	矢	妙	子	川	島	優	子	中	野	田	鶴	子	子
佐	藤	志	津	中	野	田	子	中	村	静	明	子	子
中	野	美	和	藤	井	恵	子	松	山	子	子	子	子
福	田	茨	美	山	口	世		山	口				
堀	川	洋	子										
村	田	桂	子										
				< Alt. >									
片	岡	美	保	菊	地	禎	子	片	岡	美	保	菊	子
郷	近	静	子	小	林	総	子	右	藤	由	伊	小	子
齊	藤	由	子	佐	藤	照	子	千	葉	美	枝	長	子
吉	田	美	子	高	谷	信	子	吉	田	淳	子	高	子
				< Ten. >									
阿	部	正	司	近	藤	国	男	阿	部	正	司	近	藤
佐	木	康	勝	根	田	幸	悦	々	田	康	清	根	吹
福	田	睦	郎	矢	形	隆	志	吉	田	睦	郎	尾	形
吉	田			尾	利	利	夫						
				< Bas. >									
牛	越	光	恂	加	藤	学	洗	牛	越	光	恂	加	藤
金	矢	隆	紀	佐	藤	二	二	照	井	隆	一	内	藤
吉	田	久	五	内	寛			吉	田	五	郎		寛

<主な活動> 昭和44年 1969年

6/9(月) 会報「北の声」創刊号発刊
 11/23(日) 水沢南中学校開校式にて校歌(千葉了道作曲)演奏

北声会合唱団

第4回演奏会

指揮 千葉了道

02

とき 1969.7.17 PM 6:30

ところ 岩手教育会館ホール



北声会合唱団第4回演奏会によせて 清水 脩

北声会のみなさんと、この4月を入れて、2度お会いしました。そればかりでなく、みなさんの歌もききました。『大人の合唱。だ』という印象が強くてこっています。つまり、若々しさを中にたっぷりと秘めた、それでいていかにも『成熟したもの』を醸しているのです。ですから、当然、表現の幅が広く、深いのです。鋭敏な感度と、その感じたものを深化する力を兼ねそなえています。少しほめすぎたかもしれませんが、何も北声会を完成した合唱団だと言っているのではありません。完成への道を着実に歩んでいるということです。或は平俗にこうも言えるでしょうか。作曲者が安心して作品を任せることができる合唱団と。東北の一角に、このような『大人の合唱団』があるということに、私は驚きとともに尊敬の念を払わずにはおれませんが何によってそのような合唱団でありうるかを同時に考えないではおられないのです。指揮者千葉了道氏の手腕にその根拠を求める外はありません。氏の円満の中にきびしさを失わぬ人格。ただ1つの『音』にも、いきさかの妥協もゆるさぬ誠実で、高貴な sensibility——私はそこに思い当って、北声会の存在をはっきりとつかむことができました。

今年の4月13日、それは啄木忌でした。私は北声会のために、啄木の歌に曲をつけて、贈りたいと思っています。いつになるやら約束はできませんが……………併成功をはるかにのっています。

第4回演奏会にあたって 指揮者 千葉了道

北声会も結成してから4年になりました。皆様の御後援のお蔭で、どうやら歩いて参りました。その間メンバーに移動があったり、あるいは合唱団の目的は何かなどと迷ったりしましたが、その度に唯合唱するよろこび、に支えられて問題を切り抜けて参りました。

アマチュア合唱団の存在意義が最近合唱界の話題にもなりましたが、私は——みんなで美しい合唱を作ろう——という素朴な単純な目的に結集したいと考えています。色々な功罪はそれについて来るでしょう。

発表会は私たちの練習の結果を聞いて載くわけで、本当は無料で御招待すべきだと思いますが、そうも行かず御申訳ない事です。

今回は色々な曲をやってみました。古典は古典の、近代の曲は近代の次々の良きを持っています。愛唱歌は私たちの憩いとして歌いたいと思います。尚小品集に私の曲も入っていますが、演奏してくれる北声会の方々に感謝しています。又今回も清水精先生から身に余るメッセージを頂戴し冷汗の出る思いですが、一生懸命やりたいと思います。

発表会にあたって 北声会合唱団委員長 吉田 久五郎

今晚は北声会の発表会にお集りいただきましてありがとうございます。私達は、それぞれ昼の勤めを終って、月、木の夜、週二回の練習を重ねてきました。仕事に追われて、練習日に出席できないことも、しばしばありました。しかし、歌うことが好きでやめられない途中の集りです。発表会を目標にして、できるだけ努力をしました。

結果は『好きこそ上手』といわれるか、『へたの横好き』といわれるか、皆様方のきんのない御批評をおきかせいただきたいと思っています。

合唱は、やろうと思えば誰にでも手軽にできる、もっとも大衆的な音楽活動だといわれています。そして歌い合わせる楽しさは、何ともいえないものです。合唱は、本来歌って楽しむものなようです。このような考えをもって発表会をもつのは、不遜なことですが、歌える曲が一曲、二曲とふえてくると、誰かに聞いてもらいたいという気持ちも自然だと思います。又、発表会のために一層練習にはげみができるということもあります。

今夜は私達と共に合唱音楽を楽しんでいただければ幸いです。

